

文部大臣への要望書について

平成 11 年 7 月 21 日

文部大臣

有 馬 朗 人 殿

科学研究費補助金による海外調査の申請のあり方に関する要望書の送付

日本霊長類学会会長 杉山幸丸

科学研究費補助金国際学術研究の基盤研究への統合にともない、海外での学術調査もまた、基盤研究の枠内で実施されることになりました。この措置には海外学術調査を申請する上で多くの問題点を含んでいるように思われます。ここにこれに関します要望書を添付させていただき、科学研究費補助金による学術調査がさらに発展するような措置をご検討下さいますようお願いいたします。

平成 11 年 7 月 21 日

文部大臣

有 馬 朗 人 殿

科学研究費補助金による海外調査の申請のあり方に関する要望書

自然史学会連合代表 速水 格
種生物学会会長 矢原徹一
日本植物分類学会会長 加藤雅啓
日本生態学会会長 小野勇一
日本霊長類学会会長 杉山幸丸

科学研究費補助金による海外での学術研究の申請のあり方に関して、要望いたします。

科学研究費補助金国際学術研究の基盤研究への統合にともない、海外での学術調査もまた、基盤研究の枠内で実施されることになりました。この措置は、私たち学術調査関係者が意見を述べる機会がないままに決定され、実施されたものです。私たちは、国際学術研究の基盤研究への統合は形式的な措置であり、学術調査は別の審査区分としてこれまでどおり申請できるものと考えて、事態を楽観的にとらえてまいりました。しかし、交付内定において国際学術研究の廃止が明言され、従来の申請時期である 5 月に申請受け付けが行われなかったことで、事態の重大さに気づきました。以後、日本学術振興会研究助成課に連絡をとり、要望を重ねて参りました。私たちの要望の主な点は以下の 4 点であります。

- (1) 海外における生物系の学術調査（標本採集調査・生態観察調査・化石発掘調査など）は、日本国内の野外調査と違って、治安上の問題があり、交通上のアクセスが悪く、英語が通じない地域で実

施されることが多い。このため、最低 4-5 名のチームで実施されるのが常であり、個人研究として実施することは困難である。また現地の諸機関との連絡調整がよくとれていることが、実施上の必須条件である。この条件が整わないまま調査を実施すれば、試料の持ち出しなどに関して国際的なトラブルが発生しかねない。このような特殊性から、他の研究課題と同じ枠で審査することは適切ではないため、別の審査区分を設けていただきたい。

- (2) 海外における生物系の学術調査の研究代表者は、一方では国内において、先端的な研究課題に関する研究を旧一般研究、基盤研究（一般）などにより実施し、その一方で学術調査を組織してきた。このような重複申請が可能であったからこそ、日本の学術調査を海外でも高い評価を受ける成果をあげてきた。重複申請ができなければ、アクティブな研究者の大半は、より確実に成果があがり、先進的な研究としての評価が受けられる国内での研究を選択せざるを得ない。このため、学術調査が審査区分として残されたとしても、基盤研究（学術調査）ではなく、基盤研究（一般）を選択せざるを得ない。学術調査の発展のためには、重複申請をぜひ認めていただきたい。
- (3) 海外における学術調査においては、相手国の研究者を研究分担者に加えることが、調査許可を得たり、現地での調査を円滑に実施するうえで不可欠な場合が少なくない。基盤研究への統合にともない、相手国の研究者を研究分担者に加えることはできないとされているが、この点を改善していただきたい。
- (4) 国際学術研究においては、調査の実施に先立ち相手国機関などとの連絡調整を早めにとる必要性を考慮し、およそ 12 月時点での内内定措置をとってきた。基礎研究統合後も、この措置を残していただきたい。

わが国は、欧米諸国のみならず、さまざまな開発途上国と協力して、科学研究を発展させていく国際的責務を負っています。この責任を果たすうえで、学術調査のさらなる発展をはかることは、不可欠であります。私たちは、先端的な研究においてすぐれた成果をあげると同時に、機会が与えれば、開発途上国の研究者と協力して学術調査を実施し、国際的に貢献したいと切望しております。上記の事項についてご検討のうえ、次年度の科学研究費補助金の申請におきまして、科学研究費補助金による学術調査がさらに発展するような措置をご検討いただけるよう、要望いたします。